

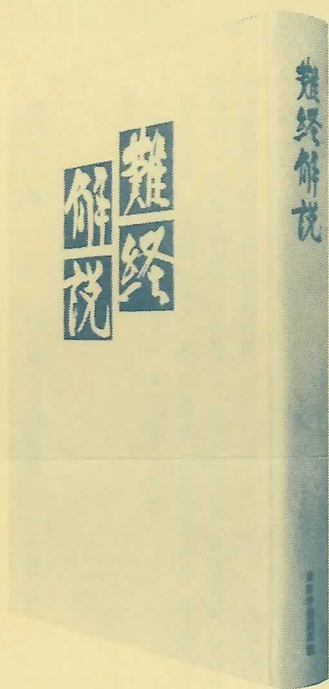
針灸臨床の出発点

医学経典『難経』が身近かになった！

難 経 解 説

南京中医学院編・戸川芳郎・東大文学部教授 監訳
浅川 要・井垣清明・石田秀実・勝田正泰・砂岡和子
兵頭 明 訳

中国学研究者も参加して和訓の正確さを追究！
『難経』注解書の決定版 完成！！



- 権威ある原著
現代中国で最も広い支持をうける『難経』注解書。「平易さと文献実証主義的厳密性を兼ね備えた良書として、かけがいのない価値を有す」(東北大学中国哲学研究室・石田秀実)。
- わが国の中国哲学研究者が参加して和訓と翻訳
わが国の中国哲学権威者、戸川芳郎、石田秀実氏が、本書のために特別に和訓作成・翻訳に参加。医学経典の注解書で初めて中国学研究者と臨床家による共同事業が実現！
- 総合的・多角的解説書
【原文・書き下し・語釈・現代語訳・解説・本難の要点】の構成で、総合的・多角的に『難経』を注解。巻末に充実した索引を付し、「難経辞典」としての内容を備える。

A5判 上製 函入 460頁 定価6,700円(〒310円)

〒272 市川市宮久保3-1-5

東洋学術出版社

電話(0473)71-8337
FAX(0473)72-7060

大分前から友人達との間で話が難経に及ぶと、いつもきまって「本間祥白氏の『難経の研究』だけしかないのは、何といてもお互いに怠慢のそしりを免れない」という結論になってしまふ……。何故「次の『難経研究が、どうしても必要なか。それはわが国の古典派といわれる鍼灸の諸流派が、その源を概ね難経に依據している」と自称していることに由来する。またそれ程に鍼灸臨床にと「難経が重要な地歩を占めているからである。日本の鍼灸の歴史的・社会的条件からみて、その本道を正しく発展させていくためには、難経を正しく位置づけ、その本来の臨床像を実現する必要が急務なのである。」

このたび東洋学術出版社が三年余りの才月をかけて優れた翻訳グループを組織し、南京中医学院編の『難経訳釈』の完訳本を出版されることになり、心から歓迎の拍手を送りたい。これによって「本間・難経の次」が充足された。

原著『難経訳釈』は解放後の中国で早期に出版された難経解説書であり、現代中国での標準的な注解書として版を重ねており、おそらくこの20年間に数十万部が読まれているのであろう。それはこの書が底本の選択や構成の面で優れているからと思われる。……………

その上にこの訳書には原著にはない「和訓書き下し」が本文の後に加えられている。この和訓はわが国の漢方・鍼灸家にとっては伝統的に暗誦するに便であり欠かせないものとなっているためその正確さが常に問題となる部分である。その点で中国の当代における最高権威の東大・戸川芳郎教授が監修されたことよって、最も信頼のおけるものになっている。（『中医臨床』誌書評より）

原塾塾長 島田隆司

組見本

第三十七難

◎五臓と九竅の関係について論ずる。

【原文】

三十七難曰、五蔵之氣、於何發起、通於何許、可曉以下。
然。五蔵者、當上関於九竅也、故肺氣通於鼻、鼻和則知香臭矣。肝氣通於目、目和則知黑白矣。脾氣通於口、口和則知穀味矣。心氣通於舌、舌和則知五味矣。腎氣通於耳、耳和則知五音矣。五蔵不和、則九竅不通、六府不和、則留結爲癥。

【書き下し】

三十七難に曰く、五蔵の氣、何くに發起し、何許に通ずる、曉る可きやいなや。
然り。五蔵は、當に上九竅に關するなり、故に肺氣鼻に通じ、鼻和すれば則ち香臭を知る。肝氣目に通じ、目和すれば則ち黑白を知る。脾氣口に通じ、口和すれば則ち穀味を知る。心氣舌に通じ、舌和すれば則ち五味を知る。腎氣耳に通じ、耳和すれば則ち五音を知る。五蔵和せざれば則ち九竅通せず、六府和せざれば則ち留結して癥となる。

【語釈】

① 九竅——一説では耳、目、鼻はいずれも二竅あり、これに口一、舌一、喉一を加えて九竅としている。一説では、耳目鼻は各々二、これに口一、前後二陰（尿道と肛門）を加えて九竅としている。楊玄操は、「上には七竅あるだけなのに九としているのは、二陰は奥深く隠れているので、いわないだけなのである。（実際には）腎氣は上部で耳に通じ、下部で二陰に通じている。ゆえに九竅というのである」と述べている。

【現代語訳】

五臓の精氣はどこでどのようにして産生されるか、またどのように通じ合っているか、これらの状況を理解することはできるだろうか。
答へ。五臓は人体上部の頭や顔にある九竅と連絡している。肺の精氣が鼻孔に通じているからこそ、鼻の機能は正常に働き、気味の香臭を弁別できる。肝の精氣が眼に通じているからこそ、眼は正常に働いて、色の黑白を見分けることができる。脾の精氣が口に通じているからこそ、口の機能は正常に働いて、飲食物の滋味を味わうことができる。心の精氣が舌に通じているからこそ、舌の機能が正常に働き、五味を弁別できる。腎の精氣が耳に通じているからこそ、耳の機能が正常に働き、五音を聞き分けることができる。このようなわけであるから、五臓の機能が失調すると、直ちに九竅に影響して閉塞して不通となり、六腑の機能が失調すると、すぐに気が滞り結んで腫れものができる。